

問1 中部地方の北陸各県における製造業の特色について述べた文として、正しいものはどれですか。統計上の製造品出荷額の内訳を説明した内容に基づき、適切なものを選びなさい。 (2016年 福岡県公立入試 類似)

1. 福井県では印刷業が盛んに行われており、新潟県では輸送用機械の出荷額が最も多い。
2. 新潟県では食料品や電子部品の割合が高く、富山県では化学工業や輸送用機械の割合が高い。
3. 新潟県では化学工業が、富山県では繊維工業が、それぞれの県の製造品出荷額の半分以上を占めている。
4. 富山県では石油・石炭製品の割合が最も高く、福井県では電子部品の製造が中心となっている。

問2 本州の中央部には、標高3000m前後の高い山々が連なり、「日本の屋根」と称される山岳地帯があります。ここに含まれる3つの山脈のうち、最も南東側に位置する山脈の名称を選びなさい。 (2018年 埼玉県公立入試 類似)

1. 奥羽山脈
2. 飛騨山脈
3. 越後山脈
4. 赤石山脈

問3 中部地方の自動車工業の特徴と、その発展を支えた地理的・経済的要因の説明として正しいものを次の中から選んでください。 (2019年 大分県公立入試 類似)

1. 水はけのよい台地が広がっており、広大な果樹園を工業団地へ転換することで用地不足を解決した。
2. 寒冷な気候を活かした精密機械工業が発展し、その技術を転用して電気自動車のみを専門に製造する地域となった。
3. 原材料をすべて海外からの輸入に頼るため、大型貨物機が発着できる空港の周辺に組み立て工場が集約された。
4. 製品の輸出に便利な大きな港が近くにあり、周辺にはエンジンやブレーキなどの部品を製造する工場が集積していた。

問4 北陸地方の地場産業や伝統的工芸品について述べた次の文のうち、歴史的背景や地理的特徴をふまえた正しい記述はどれですか。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)

1. 江戸時代に藩の政策で職人が集められ、冬の農閑期を利用して技術が磨かれ継承されてきた
2. 稲作が向きな土地柄であったため、江戸時代から農業を完全に廃止して工業に特化してきた
3. 原材料をすべて海外からの輸入に頼ることで、大規模な貿易港をもつ都市を中心に発展した
4. 明治時代以降、雪の影響を避けるために地元の伝統的な工場はすべて太平洋側へ移転した

問5 富山市が、路面電車の軌道を環状化するなど公共交通の利便性を高める都市整備を行った背景にある、現代の日本が抱える課題に対応した街づくりの考え方を何というか。 (2024年 広島県公立入試 類似)

1. 工業地帯を中心市街地に誘致し、製造業を活性化させる「工業団地」の整備
2. すべての道路を高速道路と接続し、自動車の移動時間を短縮させる「車社会化」の徹底
3. 生活に必要な機能を公共交通沿線や中心部に集約させる「コンパクトシティ」の形成
4. 郊外の宅地開発を促進し、人口を分散させる「スプロール化」の推進

問6 北陸地方に位置する富山県では、輸送用機械などの製造に比べて非鉄金属工業の出荷額が目立つという特徴があります。この工業が富山県で発展した主な背景として、最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)

1. 人口が300万人を超える大規模な消費市場と労働力が確保されていたため。
2. 太平洋ベルトの東海工業地域に隣接しており、輸送の利便性が高いため。
3. 原料となる鉱産資源が豊富に産出され、内陸工業地域が形成されたため。
4. 急峻な地形を流れる河川を利用した、豊富な水と電力を得やすかったため。

問7 富山市では、旧JR富山港線を路面電車化（LRT化）したことで、公共交通の利便性が大幅に向上しました。運行状況の変化をみると、かつては30分から60分に1本程度だった運行間隔が、日中は15分、ラッシュ時には10分間隔へと短縮されました。このような運行サービスの改善がもたらした直接的な結果として、最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 長野県公立入試 類似)

1. 1人あたりの輸送能力を高めるため、従来の車両よりも大型で定員の多い車両が導入された。
2. 運行本数を増やしたことで維持管理費が増大し、1人あたりの運賃が大幅に引き上げられた。
3. 運行効率を最優先した結果、駅の数的大幅に削減し、速達性を高めることで利用者が増加した。
4. 1日あたりの輸送人数が、LRT開業前の約2000人台から開業後は5000人台へと大幅に増加した。

問8 長野県の諏訪湖周辺に位置する諏訪盆地では、明治時代から昭和初期にかけて生糸の製造が盛んに行われていました。第二次世界大戦後、この地域では製糸業で培われた技術や労働力を活かして、時計やカメラなどを製造する特定の工業が発展しましたが、その工業の名称として最もふさわしいものを選びなさい。 (2026年 新潟県公立入試 類似)

1. 重化学工業
2. 精密機械工業
3. 自動車工業
4. せんい工業

問9 北陸地方の富山県において、アルミニウム工業が発達した理由として、この地域の自然環境とエネルギー源の関係について述べたものとして正しいものを選びなさい。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 高い山々と豊富な降水量を活かした水力発電が、大量の電力を供給した
2. リアス海岸の入り組んだ地形を活かした原子力発電が、安定した電力を供給した
3. 森林資源から得られる木材を燃料としたバイオマス発電が、工場の熱源を供給した
4. 広大な平野部と日照時間を活かした太陽光発電が、クリーンな電力を供給した

問10 北陸新幹線の延伸開業が、石川県や富山県などの沿線地域に与えた地理的・社会的な影響の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 島根県公立入試 類似)

1. 首都圏との移動時間が大幅に短縮されたことで、観光客の増加やビジネスの活性化が進んだ。
2. 農産物の高速輸送が可能になったことで、北陸地方は日本最大の近郊農業地域へと変化した。
3. 太平洋側の工業地帯と直接結ばれたことで、内陸部に大規模な石油化学コンビナートが形成された。
4. 日本海側から太平洋側への人口流出を阻止するため、すべての特急列車が廃止され新幹線に一本化された。

問11 日本アルプスを構成する3つの山脈について、北から順に、通称「北アルプス」「中央アルプス」「南アルプス」と呼ばれます。このうち、最も北側に位置する「北アルプス」の正式名称を選びなさい。 (2024年 長野県公立入試 類似)

1. 越後山脈
2. 木曽山脈
3. 赤石山脈
4. 飛騨山脈

問12 静岡県の産業構造の特徴として、第2次産業の就業者割合が他の地域に比べて高いことが挙げられる。この要因となった背景として最も適当なものとはどれか。 (2025年 青森県公立入試 類似)

1. 自動車や楽器などの製造業が発達し、東海工業地域の一角を占めているため
2. 広大な土地を利用した大規模な畑作や酪農が展開されているため
3. 美しい自然景観を生かした観光業が主要産業となっているため
4. リンゴなどの果樹栽培が盛んで、それに伴う食品加工業も多いため

答え合わせ・解説

問1	答え 2 新潟県では食料品や電子部品の割合が高く、 富山県では化学工業や輸送用機械の割合が高い。	北陸地方は県ごとに発達している工業分野が異なります。新潟県では米どころとしての背景から食料品工業が発達しているほか、電子部品の製造も盛んです。富山県では、豊富な水資源と電力を背景に発展した薬品などの化学工業や、輸送用機械の割合が高いという特色があります。選択肢にある石油・石炭製品や印刷業は、この地域の主な特色とは言えません。
問2	答え 4 赤石山脈	中部地方の中央部には、北から順に飛騨山脈、木曽山脈、赤石山脈という3つの険しい山脈が並行して走っています。これらは総称して日本アルプスと呼ばれます。赤石山脈はその中で最も南に位置しており、別名「南アルプス」とも呼ばれる日本を代表する山脈の一つです。
問3	答え 4 製品の輸出に便利な大きな港が近くにあり、 周辺にはエンジンやブレーキなどの部品を製造する工場が集積していた。	中部地方の自動車工業は、名古屋港などの輸出に便利な港湾施設を備えていたことに加え、膨大な数の部品を供給する関連工場が組み立て工場の周辺に集積（ジャストインタイム生産方式など）していたことが大きな強みとなりました。これにより、輸送コストを抑えつつ効率的な大量生産が可能となりました。
問4	答え 1 江戸時代に藩の政策で職人が集められ、冬の 農閑期を利用して技術が磨かれ継承されてきた	北陸地方では、江戸時代初期に加賀藩などの藩主が産業振興のために各地から優れた職人を招き入れる政策をとりました。これが、冬の厳しい降雪期間に室内で行う手仕事と結びつき、現代まで続く輪島塗や加賀友禅、燕三条の金属加工といった地場産業の基盤となりました。また、北陸地方は日本有数の稲作地帯でもあり、農業と工業が密接に関わって発展してきたのが特徴です。
問5	答え 3 生活に必要な機能を公共交通沿線や中心部に 集約させる「コンパクトシティ」の形成	地方都市における人口減少や少子高齢化、郊外化による中心市街地の空洞化（シャッター通り化）といった課題に対し、富山市は「コンパクトシティ」を掲げた政策を行っています。路面電車の環状化は、高齢者や子どもなどの移動手段を確保し、中心部に人を呼び戻すことで、持続可能な都市を目指す重要な施策の一つです。
問6	答え 4 急峻な地形を流れる河川を利用した、豊富な 水と電力を得やすかったため。	富山県では、黒部川などの急流を利用した水力発電が盛んに行われてきました。非鉄金属工業、特にアルミニウムの精錬などは製造過程で大量の電力を消費するため、安価で豊富な電力を供給できる環境が整っていた富山県で、この産業が発展しました。
問7	答え 4 1日あたりの輸送人数が、LRT開業前の約200 0人台から開業後は5000人台へと大幅に増加 した。	旧JR富山港線からLRTへ移行した際、運行間隔の短縮や始発・終電時間の改善、さらに段差のない低床車両の導入といった利用者視点のサービス向上が行われました。この結果、2000年時点では1日約2000人台だった輸送人数が、2006年のLRT開業以降は5000人台へと倍増しました。これは、公共交通を軸とした「コンパクトなまちづくり」の成功例として知られています。
問8	答え 2 精密機械工業	諏訪盆地は、明治時代には器械製糸による生糸の生産が盛んな地域でした。戦後は、製糸業で培われた手先の器用な労働力や、内陸部特有の湿度が低く澄んだ空気、そして清らかな水といった環境条件が、微細な部品を組み立てる時計やカメラなどの製造に適していたため、精密機械工業が急速に発展しました。その様子から「東洋のスイス」とも呼ばれました。
問9	答え 1 高い山々と豊富な降水量を活かした水力発電 が、大量の電力を供給した	アルミニウムは「電気の缶詰」と呼ばれるほど、製造工程において多量の電力を消費します。富山県では、標高の高い山地からの急な傾斜と、全国5位（約2374mm）という極めて多い降水量・積雪量を活用した水力発電が古くから盛んでした。この安価な電力が供給されたことが、エネルギー多消費型産業であるアルミニウム工業が立地する最大の要因となりました。
問10	答え 1 首都圏との移動時間が大幅に短縮されたこと で、観光客の増加やビジネスの活性化が進ん だ。	北陸新幹線の開通により、かつては乗り継ぎが必要だった東京と北陸地方が直結されました。これにより時間距離が短縮され、金沢や富山といった都市への観光客が急増したほか、企業の支店設置が進むなど経済的な結びつきが強まりました。一方で、並行する在来線の経営分離などの課題も生じています。
問11	答え 4 飛騨山脈	日本アルプスは北から順に、飛騨山脈（北アルプス）、木曽山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）という名称がついています。これらの山脈は、日本列島を東西に分ける大きな溝（フォッサマグナ）の西側に位置しており、日本の国土を象徴する高峻な地形で構成されています。
問12	答え 1 自動車や楽器などの製造業が発達し、東海工 業地域の一角を占めているため	工業出荷額などが全国でも上位に位置する工業県であり、特に輸送用機械や楽器などの製造業に従事する人口が多いため、第2次産業の割合が高くなる。選択肢にある大規模な畑作や酪農は北海道、リンゴ栽培は青森県の特徴である。